

神子元島をImportant Bird and Biodiversity Areas (IBA)に選定

バードライフ・インターナショナルが世界100か国以上の加盟団体と共同実施する、国際的かつ科学的な基準で野鳥の生息地をリスト化し、法的な保護の目標を示すことなどを目的としたIBAプログラム。そのIBA生息地リストに神子元島が追加されました。選定の基準となったのがカンムリウミスズメです。

また、神子元島の周辺海域は、海洋における食物連鎖の上位に位置する海鳥を指標として、生物多様性や環境保全において重要な海域を選定するマリーンIBAに選定されています。詳細はホームページをご覧ください。



出前講座などのご案内

現地の会場やオンラインでのカンムリウミスズメについての講演や、観察会などに同行してのカンムリウミスズメについての説明、展示など、各地での普及教育活動に講師の派遣などを行っています。

詳しくは、自然保護室にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

TEL : 03-5436-2634 e-mail : sanc@wbsj.org



講演会などの開催

ご支援のお願い

カンムリウミスズメの保護など当会の活動は皆さまからの会費やご寄付によって支えられています。

◆お問い合わせ

共生推進企画室

TEL : 03-5436-2630

e-mail : kifu@wbsj.org

HP : <https://www.wbsj.org/>



バードメイト
(一口1000円・
プレゼント付き寄付)



シルバープルーチ
(一口5000円・
プレゼント付き寄付)

ご支援について↓



最新情報はこちら

カンムリウミスズメの保護活動の最新情報や調査結果の速報、特徴や生態などをホームページやSNSでお知らせしています。日本野鳥の会ホームページの「当会の活動-自然保護活動について-絶滅危惧種の保護-カンムリウミスズメ」に掲載しています。TwitterやYouTube、Facebookへもリンクしています。



カンムリウミスズメ保護事業 2023年度活動報告書

公益財団法人日本野鳥の会
自然保護室
東京都品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
TEL 03-5436-2634
2024年4月30日発行



公益財団法人日本野鳥の会
カンムリウミスズメ保護事業
2023年度 活動報告書



Annual Report 2023



主な活動

- ・ 4/18 三宅島大野原島にて日中の洋上個体数調査を実施 (122羽確認)
- ・ 4/18-21、5/2-3 静岡県神子元島にて利用海域調査を実施
- ・ 6/5 福岡県鳥帽子島にて人工巣の利用状況調査およびメンテナンスを実施
- ・ 7/12 静岡県神子元島にて人工巣の利用状況調査およびメンテナンスを実施
- ・ 9/15-17 日本鳥学会2023年度大会にてポスター発表
- ・ 11/24、25 徳島県にて徳島県支部と共催で講演会を実施
- ・ 11/26 徳島県牟岐町の繁殖地を視察
- ・ 12/27、1/17 静岡県神子元島にて人工巣を再設置

2023年度、当事業はF氏カンムリ基金をはじめ、クラウドファンディングなど皆様からのご寄付や日本軽金属株式会社、日軽金アクト株式会社からのご支援を基に実施いたしました。

公益財団法人
日本野鳥の会

GPSロガーを使った利用海域調査

今年は神子元島、祇苗島の両島でGPSロガーを使った繁殖地周辺の利用海域の調査を行う予定でしたが、海況の関係で神子元島のみ調査を実施することができました。神子元島では4個体からデータを得ることができました(図1)。昨年度までに3回調査を行ってきましたが、今回はこれまでで最も遠い、直線距離で約27km離れた場所まで移動していました。これまでの調査で年によって利用する海域が異なることが分かってきました。これらのデータはカンムリウミスズメの環境選択の解明や保護活動に活用していきます。

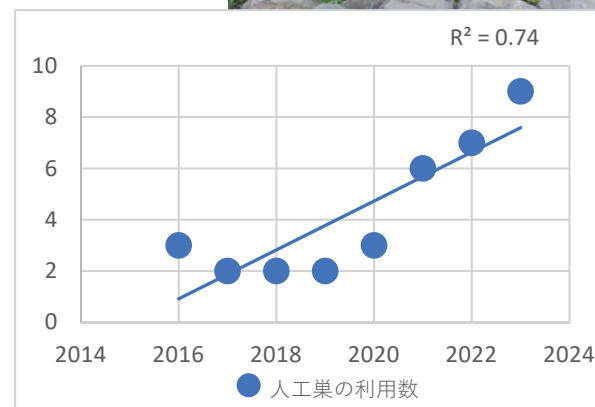
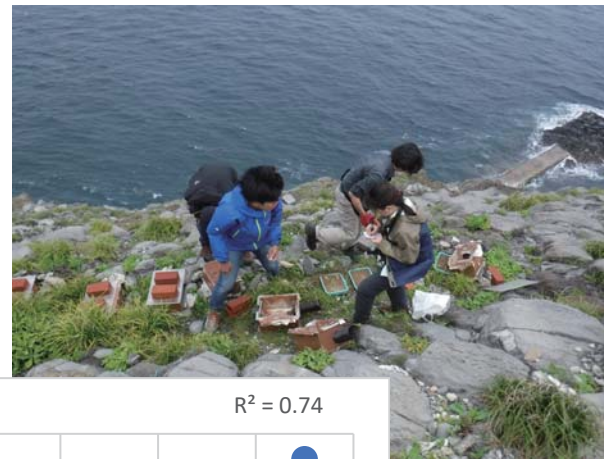


図1. カンムリウミスズメの移動範囲

人工巣による繁殖環境の整備

静岡県の神子元島と福岡県の烏帽子島にカンムリウミスズメの人工巣を設置しました。烏帽子島では、昨年度から長崎大学と始めた新しい置き方の試行を続け、4つの巣で産卵が、その他複数の巣で産座の形成などカンムリウミスズメが入った形跡が確認できました。

2016年から人工巣の利用が始まった神子元島では、2019年からプラスチック製人工巣の利用が始まった後、順調に営巣数が増加してきています。2023年は設置した25個のうち9個で産卵あるいは孵化が、その他8個で産座の形成などカンムリウミスズメが入った形跡が確認できました。元々、営巣数がとても少ない島でしたが、少しずつ個体数が増えてきています。



※人工巣の設置数は、平均24個(18~27個)です。

人工巣について学会で発表

9月16~17日に石川県にある金沢大学角間キャンパスで開催された日本鳥学会2023年度大会で、2010年から取り組んできた人工巣による繁殖補助について、2016年以降に製作したタイプの人工巣の構造や利用率や孵化率などについてまとめ、ポスター発表を行いました。この数年で、神子元島における利用率が向上してきたこと、神子元島以外に設置したものについても利用が確認できたことなどから、人工巣として使用して問題がないと判断し、発表することにしました。今後、論文としてもまとめ、ご興味のある方に情報が届くように公表する予定です。



徳島県でカンムリウミスズメ講演会を開催

11月25日に徳島市で、11月26日に牟岐町で日本野鳥の会徳島県支部と講演会を共催しました。当会自然保護室室長からカンムリウミスズメの分布や基本的な生態などを説明した他、北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員武石全慈氏より牟岐町での調査結果や天敵の問題について、最大の繁殖地である宮崎県枇榔島で長年調査保護活動を行なっている日本野鳥の会宮崎県支部副支部長中村豊氏より長年の調査からわかったことや生態、保護に向けた地域の取り組みなどをご紹介いただきました。各回それぞれ約100名の方のご来場があり、住民からは牟岐町の宝として守る必要性などについてご感想をいただきました。今後、釣りのための渡船やカンムリウミスズメの撮影や観察などの利用と繁殖地の保護について地域のルールや取り組みを考えていくきっかけになればと考えています。



徳島県のカンムリウミスズメの繁殖地

徳島県では、2000年にまとめられた徳島県野鳥リスト2000に記載されるまでカンムリウミスズメの観察記録の報告はありませんでしたが、前述の講演が行われた徳島県海部郡牟岐町では、かなり前から漁業者の間でウミスと呼ばれその存在が知られていたそうです。牟岐町におけるカンムリウミスズメの繁殖は、2003年に徳島新聞にヒナ連れの家族群の記事が掲載され、一般にも知られるようになりました。また、いくつかのグループにより個体数調査も行われています。

11月26日、牟岐町の繁殖地を案内していただきました。繁殖地は、伊豆諸島のものに比べると、とても小さな岩礁にあり、人の立ち入りなどの影響やカラス類による捕食が心配されています。当会は、カンムリウミスズメの保護と利用ルール作りについて、地元の方による取り組みを応援しています。

